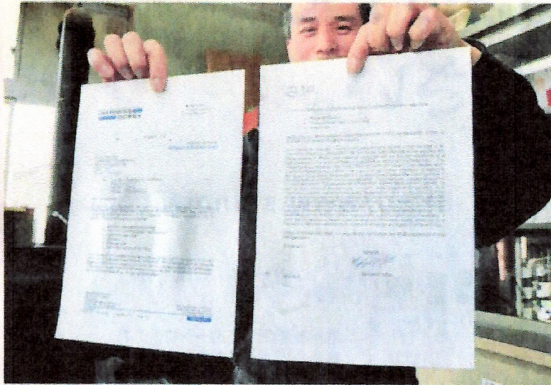


信州ワイド



米国での特許出願手続き終了を知らせる現地弁護士からの文書を持つ林教諭

昨年度の高3考案 ペットボトル洗浄装置

米国で特許出願

駒ヶ根工高

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)で選択科目「産業財産権基礎」を履修した2014年度の3年生5人が考案したペットボトル洗浄装置の特許が、米国の弁護士を通じて同国で1月に出願された。日本の特許庁によると、日本の高校生が米国へ特許出願した例はこれまで把握していない。携わった当時の生徒は「授業で始めたことがこんなことになるとは」と驚き、喜んでいる。

災害時などの水不足に対応する

災害時の水不足に対応

ため、タンクにためた雨水を太陽光による電力で循環・ろ過し、散水やトイレの洗浄などに再利用する自立型装置の一つの機能として考案した。日本では、ペットボトル洗浄を含め、装置に関わる機能3件の特許を出願済みだ。

5人は、井上優太さん、井沢雄馬さん、北島達成さん、藤川一樹さん、野口サンチアゴさん。現在、諏訪市の製造業に勤める井上さんは「課題解決のため試作品を何度も作った」と振り返る。

日本での特許出願には、子どもたちの発明を無償で応援する「子ども発明プロジェクト」世話人の弁理士山崎幸作さん(千葉県浦安市)らが協力。米国への出願も、山崎さんが提案し、現地の弁護士を通じて手続きした。

科目を担当する同校機械科の林厚志教諭(49)は「やったことのないことをしたいのと、世界共通のペットボトルに関する技術を活用できるものにしたかった」と話す。出願の結果が分かるのは日本が7月ごろ、米国は未定という。井上さんは「装置は幼稚なものだけれど、特許が認められて何かの役に立てばいい」と話している。